

日経平均株価

3万9523円55銭

▲80円92銭(前日比)

TOPIX

2759.64

▲12.68(前日比)

www.marketpress.jp

2024  
4/15  
月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



# 予想以上に強い設備投資

## 半導体向けなど筆頭により活発化



設備投資は予想以上に拡大している

4月下旬からは3月期決算企業の通期決算発表がスタートするが、新年度の予想については、予想以上に強い設備投資の動向が企業業績にどこまで反映されていくかが関心を集めそうだ。財務省が先月発表した法人企業統計(速報値)では23年10〜12月期の全産業(金融・保険を除く)の設備投資は06年の同四半期以来、17年ぶりの高い伸びとなっている。国家主導で推し進められている半導体製造工場の新設など設備投資に関連する企業は改めて注目したい。

### 全産業17年ぶり高い伸び

デイスコ(6146)、レ

23年10〜12月期の設備投資に關しては市場予想の前年同期比2・8%増に対して同16・4%増と想定以上に強い伸びとなっている。

4月からは時間外労働の上限規制が適用となり、人手不足はあらゆる業種で深刻化することから、自動化や効率化に絡む設備投資はより活発化するに

なる。国内で設備投資が際立つのが半導体製造装置関連。台湾積体電路製造(TSMC)の九州やラピダスの北海道での工場新設などに絡んで、東京エレクトロン(8035)、アドバンテス(6857)、

で世界トップクラスを誇るダイフク(6383)は半導体製造ラインにも力を入れており、半導体、液晶パネル製造の自動化に欠かせないクリーンルーム向けAMHSが24時間・365日、ウエハの工程間搬送を止めることなく稼働させることに威力を発揮している。

様々な製造現場で工程集約が進むなかでDMG森精機(6141)も高水準の受注残を抱えている。

日経平均の日足チャート



4月第1週の動意銘柄

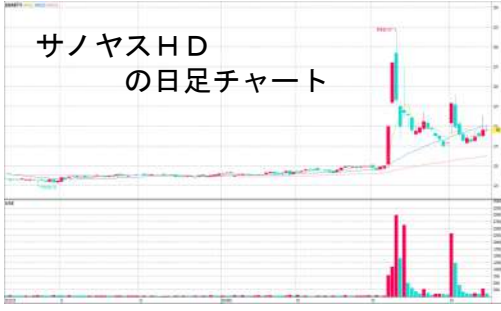
サノヤスHDが急伸

自社株買いと中計目標好感

週明け1日、サノヤスホールディングス(7022)が急伸。発行済み株式数の2・96%にあたる1000万株、1億5000万円を上限とする自社株買いを実施すると発表したことを受け、押し目買いが優勢になった。取得期間は1日から来年3月31日まで。併せて発表した中期計画で27年3月期

豊田自動織機(6201)が急落。デ

ンソー(6902)が同社株式について、3月29日付で保有する株式の一部を売却するとともに、残る株式の全てについて株式先渡契約を締結したと発表したことが嫌気された。24年6月から26年6月までに計9回、それぞれ296万4700株(発行済株式総数に対する割合0・91%)を売却先証券会社に譲渡する。



モンスターラボ業務提携

世界初のコグニティブ・テクノロジーの

2日、モンスターラボホールディングス(5255)がストップ高。Tonoms社とデジタルコンサルティング事業に関する業務提携すると発表した。Tonoms社はNEOMの100%子会社で、

半導体ラピダス政府補助

SUMCO(3436)やルネサスエレクトロニクス(6723)、東京エレクトロン(8035)、レーザーテック(69

エコシステムを推進する世界有数企業。同社のケイパビリティポートフォリオを活用しサウジアラビアでプロフェッショナルサービス提供と製品開発による持続可能な成長を目指す。

総医研HD産学連携

総医研ホールディングス(2385)が大幅に伸。東京慈恵会医科大学に産学連携講座「疲労医学講座」を開設するとともに、慈恵大学と共同研究契約を締結すと発表した。共同研究の内容はウイルス研究から得られた疲労とうつ病などに関する研究成果の社会実装。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は反発しました。日経平均は前の週から531円上昇しています。米雇用統計や消費者物価指数、生産者物価指数などの経済指標に振らされ、方向感が定まりませんでした。153円台まで進んだ円安を支えに底堅い動きを受け半導体関連が堅調に推移する一方、金株が買われ、調を強めてが進み、調整しました。

手持ち整理し強い銘柄狙う

今週はASML、TSMCの半導体有力企業が決算発表を予定しており、関連銘柄を刺激するでしょう。ただ、米10年債利回り10年債利回りすりしており、為替介入への警戒感もくすぶります。3月期決算発表が始まることから損益を確定して手持ちの整理を進めながら、個別に強い銘柄を狙うえです。



銀行株買い戻し

3日、三菱UFJフィナンシャルグループ(8306)や三井住友フィナンシャルグループ(8316)、みずほフィナンシャルグループ(8411)などメガバンクを中心に銀行株に買いが広がった。米10年債利回りは4・3%台前半まで急上昇。国内も新発10年債利回りが0・745%まで上昇しており、運用環境改善期待から買い戻しが優勢になっ



WTI 5月限が前日比1.44ドル高の1バレル85.1ドルと約5カ月ぶりの高値に上昇した。この関連銘柄に買入が広がった。イスラエルのイ

# 石油関連総じて高い

## NY原油先物5カ月ぶり高値

3日、INPEX(16)やコスモエネルギーホールディングス(502)をはじめ石油関連が総じて高い。米原油先物相場でも

ラン大使館を空爆、ウクライナがドローンによりロシア主要製油所へ攻撃を行い、地政学リスクの高まりから原油価格に上昇圧力が強まった。

### ナノMRNAコナワクチン

ナノMRNA(4571)ストップ高。東京都医学総合研究所が感染制御プロジェクトの小原道法特別客員研究員らが殻

## カウリスがストップ高

4日、カウリス(153A)がストップ高。3日、同社と関西電力(9503)傘下の関西電力送配電が提供する電力契約データを活用した不正検知サービスの電力契約者の氏名・電話番号・住所などの個人情報を利用できる

### 公開価格52%上回る

アズパートナーズの初値(160A)が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格1920円を52.2%上回る2923円で初値をつけた。

として、3省庁からグレーゾーン解消制度の回答を受けたと発表したことを受け、不正検知サービスの利用拡大と収益貢献

介護付きホーム、シヨートステイサービスなどシニア事業と介護付きホームの不動産開発、マンション賃貸などを行う。

# 参加費無料！4月20日(土)第8回セミナーin大阪

## 最高値更新後の日経平均はどくなる!?

主催：株式会社市場新聞 時間：14時～16時 受付・開場13時 参加料：無料  
申込はTEL06-6105-1904またはinfo@marketpress.jp まで

### 「プロの銘柄選びと売買タイミング」 225先物で資産を大幅に増やす!!

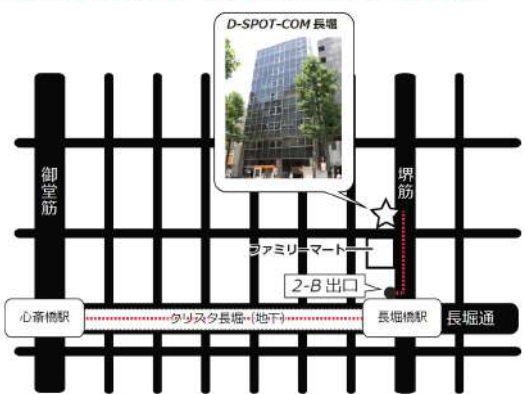
これから上昇する特選銘柄5銘柄を教えます  
数々の株式コンテストで優勝した岡山憲史さんが登壇



岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表)1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」約1万人の参加者の中から優勝のほか、多くのコンテストで優勝。1カ月間の3銘柄合計パフォーマンス155%と断トツ。週刊現代や週刊ポスト、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行い、個人投資家に投資情報サービスを提供。

会場：第一住建長堀橋駅前ビル1Fセミナールーム  
大阪市中央区南船場2丁目3-6第一住建長堀橋駅前ビル1階  
【TEL】06-6105-1904

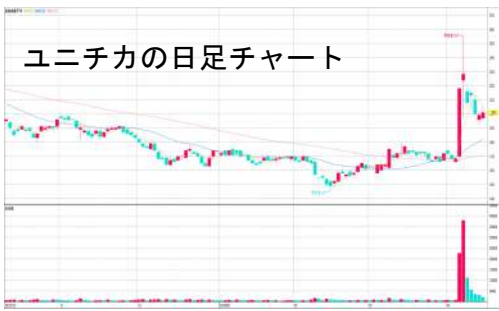
堺筋線・長堀鶴見緑地線長堀橋駅 2-B出口 徒歩1分  
御堂筋線心斎橋駅 クリスタ長堀経由 徒歩5分



# ユニチカがストップ高

## 次世代合金合成技術を開発

4日、ユニチカ(3103)がストップ高(103%)を買われ年初来高値を更新。世界最高レベルの非常に高い比表面積を有するハイエントロピー合金を合成する技術を開発したと発表した。この技術は、様々な組成のハイエントロピー合金に活用できるため、次世代エネルギーとして期待される高性能な水素生成電極や燃料電池用



電極触媒などの創出が期待される。

## オンワード今期も2桁増益

0万円を越え、2月期も前期比1.2倍の2億6000万円と2ケタ増益を

週末5日、オンワードホールディングス(8016)が大幅高で年初来高値を更新した。4日の取引終了後に発表された24年2月期の連結決算は、営業利益が前の期比2.2倍の2億4400万円と大幅減益を見込み株価は急落しており、ダイセキMCRCは大規模修繕による減益が見込まれる。

見込んだことを好感。「クリック&トライ」サービスの導入店舗を拡大させる。

## ダイセキが急落

ダイセキ(9793)が急落。同社は4日の取引終了後、25年2月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比5.5%減の140億円と減益を見込むことが嫌気された。傘下のダイセキ環境ソリューション(1712)は、前期の大型案件の反動減により連結営業利益で前期比19.6%減の2億4400万円と大幅減益を見込み株価は急落しており、ダイセキMCRCは大規模修繕による減益が見込まれる。

## トラスはAIソリューション

トラス・オン・プロダクト(6696)がストップ高。4月から自社開発のAIによる電力削減ソリューション「Airux8」を丸紅(8002)傘下の丸紅情報システムズへ国内戦略販売パートナーとして提供を開始すると発表した。こと、収益貢献が期待された。リリースの内容は一部報道事前に伝わっていたことから朝方から買いを集めていた。

## キユーピー利益上方修正

連休明け8日、キユーピー(2809)が連続急伸。24年1

1月期の業績予想丹生ついて、連結営業利益で255億円か

## 4月第2週の動意銘柄

ら310億円(前期比57.4%増)へ上方修正した。海外の成長や国内高質化の取り組み、主原料影響が当初想定より

## 瑞光48%最終減益

瑞光(6279)が急落。25年2月期は連結純利益で前

収益改善する。

## 転ばぬ先のテクニカル

### 警戒警報発令

先週の東京株式市場は反発しました。米雇用統計や消費者物価指数、生産者物価指数などの経済指標に一喜一憂しながらも153円台に進んだ円安が支援した格好です。

しかし、米利下げ観測が後ずれしだしており、米10年債利回りは昨年11月以来の4.6%近辺に上昇し危険水域に入っています。4月限オプションSQを通過しましたが、「幻のSQ値」となったことやSQ値を下回って推移していることは問題です。

今月はまだ11営業日を残していますが、現状では月足が6カ月ぶりの陰線形成となっています。25日線が右肩下がりに転じており、戻り売りが意識されています。

一目均衡表では転換線と基準線がデッドクロスし、遅行スパンも日々線の中に潜り込んでしまっており、早期に4万円台の回復がなければ値幅調整へと向かうでしょう。

日々勇太郎



期比47.8%減の4億7000万円を見込んだ。税効果会計の影響を想定。

## 公開価格25%上回る

### イタミアートの初値

イタミアート(168A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1600円を25.0%上回る2000円で初値をつけた。BtoB向けECサイト「キングシリールズ」を通じオリジナル大型セールスプロモーション・商材の企画・制作・販売を行う。



企業観察 大和ハウス工業(1925)

業績拡大へ期待高まる

大和ハウス工業(1925)の2024年3月期第3四半期は計画を上回り、連結営業利益2849億万円(前年同期比28.0%増)と3Qとして過去最高を更新、通期計画クリアにめどをつけた。開

米住宅成長速まり国内テコ入れ効果

関連して宅配の中継施設などのニーズを取り込んでいる。米国住宅事業は住宅取得層が厚く、人工増加地域に重点を置いて強化、中古住宅の流通量減少も販売拡大を後押ししており、計画を再度上方修正した。「住宅ローン

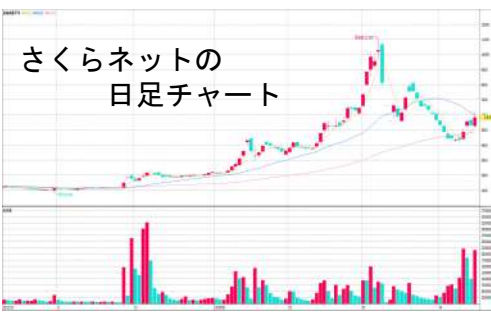
Webbyは中部電と提携
Webby(4438)がストップ高。中部電力(9502)との資本業務提携を公表した。中部電力傘下のメディアカルデータカードを子会社化、大学病院などの

ハンモックの初値
ハンモック(173A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格2060円を4.9%上回る2160円で初値をつけた。IT資産管理・セキュリティ対策、営業支援・名刺管理、AIによる文字認識を活用したデータエントリに関する業務支援システムとクラウドサービスの開発、提供を行う。

さくら2銘柄がS高

マイクロソフト日本でDC拡充

10日、た。2年間で約4400億円を投じるも、さくらインターネット(3778)とさくらケーシー(4761)がストップ高。マイクロソフトが日本でデータセンターを拡充すると伝



に適した大量の演算資源としては過去最大。AI開発や運用

イオンFST下振れ2桁減益
イオンフィナンシャルサービス(8570)が急反落。24年2月期の連結決算は、営業利益は500億8800万円(前期比14.9%減)と従

放電精密加工研究所(6469)がストップ高。24年2月

の株式交換による経営統合で最終合意した。マンサJ P株10・155株を割当交付することから、理論価格にサヤ寄せして水準を切り下げた。マンサJ Pはコナカの完全子会社となり、6月27日付

急性期医療機関との間の新たなPHRプラットフォームフォームサービスに関する共同研究を進め、中部電力へは新株を一株1150円で割り当てる。公開価格5%上回る

サマンサJ P経営統合

11日、サマンサタバサジャパニミテッド(7829)が急落し最安値。コナカ(7494)と

収益を圧迫した。25年2月期は550億円(前期比9.8%増)を見込んだが市場予想を下回った。

期の連結決算は計画を大きく上回り、営業利益2億3000万円の黒字(前期の3億1100万円の赤字)に浮上、25年2月期は3億6800万円(前期比60.0%増)と大幅増益を見込んだ。航

空機エンジンと環境エネルギー関連のガスタービン、遠心圧縮機部品の需要が回復、値上げ効果も浸透している。同時に発表した中期計画では27年2月期に営業利益8億9900万円を目標に掲げた。

# 素材、内需、石油に注目

## 高野恭壽の株式情報

# これでどや!!



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

うなり動きめ感が掴  
円相すそにない掴

先週は3月の米国消費者物価指数(CPI)に振り回されました。3・5%の伸びと2月の3・2%を上回ったために、国債金利が上昇しました。利下げが遠のくだけでなく、年3回と期待されていたのですが、それも難しくなり、1回程度になる見通しが強まったために、10日には米国株式が失望感から422ドル安まで売られました。その後は11日発表の3月の卸売物価指数(PPI)の伸び鈍化を受けてダウは売り一巡から戻す動きとなり、ナスダック指数の最高値から、週末12日は3日ぶりの反発となったのですが、戻りは鈍く、週明けも方向感がない。

## 上振れ期待でJR西

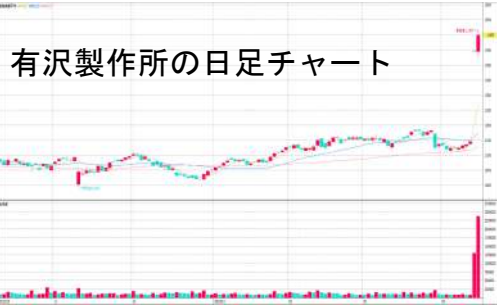
9興産(501)も要注目。

引き続き、ついに152円を突破して152円後半まで下落しました。急激な円安で日銀が介入するかどうか注目されますが、介入したとしても効果は一時的で、円安傾向が維持されそうです。そうした中で物色対象は引き続き、素材系や内需系、銀行系などから選別買いとなると見ています。内需では24年3月期業績を上方修正する銘柄などが注目され、その筆頭ともいえるべきJR西日本(9021)が物色される可能性があります。ソフバンクグループ(9984)は下落傾向から抜け出せず、8400円台まで下落しました。しかし、そこまで下落すると逆に、底値が近いと考えられます。石油系は中東情勢が依然として厳しく、再び買われる可能性があり、ますので出光興産(501)も要注目。

先週は3月の米国消費者物価指数(CPI)に振り回されました。3・5%の伸びと2月の3・2%を上回ったために、国債金利が上昇しました。利下げが遠のくだけでなく、年3回と期待されていたのですが、それも難しくなり、1回程度になる見通しが強まったために、10日には米国株式が失望感から422ドル安まで売られました。その後は11日発表の3月の卸売物価指数(PPI)の伸び鈍化を受けてダウは売り一巡から戻す動きとなり、ナスダック指数の最高値から、週末12日は3日ぶりの反発となったのですが、戻りは鈍く、週明けも方向感がない。

場も米国のCPIをみて日米の金利差拡大が続いて152円を突破して152円後半まで下落しました。急激な円安で日銀が介入するかどうか注目されますが、介入したとしても効果は一時的で、円安傾向が維持されそうです。そうした中で物色対象は引き続き、素材系や内需系、銀行系などから選別買いとなると見ています。内需では24年3月期業績を上方修正する銘柄などが注目され、その筆頭ともいえるべきJR西日本(9021)が物色される可能性があります。ソフバンクグループ(9984)は下落傾向から抜け出せず、8400円台まで下落しました。しかし、そこまで下落すると逆に、底値が近いと考えられます。石油系は中東情勢が依然として厳しく、再び買われる可能性があり、ますので出光興産(501)も要注目。

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>



## 有沢製作S高で新値

### 還元方針変更で配当引上げ期待

有沢製作(5208)が11日、25年3月期配当引上げを正式に発表し、配当が5208円から5400円に引き上げられた。これは25年3月期配当が5400円に引き上げられたことによる。また、株主還元方針を「総還元性向80%以上」と変更し、基本方針を「配当性向80%以上」と変更した。これは、25年3月期配当が5400円に引き上げられたことによる。また、株主還元方針を「総還元性向80%以上」と変更し、基本方針を「配当性向80%以上」と変更した。

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

新光商事(814)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

## ローツエは好材料山積

ローツエ(6323)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

ローツエ(6323)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

ローツエ(6323)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

ローツエ(6323)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

ローツエ(6323)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

ローツエ(6323)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

ローツエ(6323)が急落。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

### 三井不動産(8801)が急反発

三井不動産(8801)が急反発。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

三井不動産(8801)が急反発。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

三井不動産(8801)が急反発。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

三井不動産(8801)が急反発。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

三井不動産(8801)が急反発。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

三井不動産(8801)が急反発。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

三井不動産(8801)が急反発。主要取引先であるルネサスエレクトロニクス(6723)との間で締結していた特約

# チャート から読む 騰落銘柄

## IGポート(3791)



3月28日に6840円高値を付けた後25日線まで調整してもみ合い基調だったが、12日には6000円割れで50日線近辺まで下落。24年5月期予想の上方修正と増配から15日反発すれば底打ち感も。

## ソシオネクスト(6526)



半導体設計の大手で、先端2ナノプロセスチップレットでTSMC、アームと提携。225採用に伴う買い需要に貸株買戻しも加わり、前年6月に付けた実質最高値566円奪回から青空相場を一段高へ。

## ADプラズマ(6668)



3月以降1550円中心にもみ合い継続ながら24年8月期予想の下方修正を発表したことで下放れの可能性大。2月16日安値1450円水準割れれば、昨年10月31日安値1352円を見に行く展開。

## エムスリー(2413)



競争激化に伴う成長鈍化と収益性の低下を嫌気、手じまい売りに下値模索が続く。押し目買いに信用買い残の整理が進まず、年初来安値1920.5円を割り込めば、19年安値1412円までの下落も。



# 星野三太郎の株街往来

## ~不安解消され ないリニア~

ア工事を容認しても開業時期は相当年数延期になる可能性がある。更に大阪までの延伸は2037年目標だが、この目標も素人目線ながら厳しいのではない。所要時間は現在の新幹線のぞみの約半分へ短縮されるが、筆者が現役世代中にリニアを利用するのは無理かなと思ったりするので、リニアを日常生活で利用するのは次の若い世代になるだろう。

ただ、数十年先に夢の高速鉄道のニーズがどれだけあるかは疑問に感じる。現在でも会議などあらゆる仕事はオンラインで解決できるし、AIの更なる進化で人が移動することは減少していくだろうし、時間とお金を有効に使う若者は、夜行バスを利用したりする。開業にメドがついても、不安は解消されない。



開業時

期が混沌としていたリニア中央新幹線が、反対を表明していた川勝静岡県知事の辞任表明で工事が一気に進む期待が高まってきた。品川―名古屋間の開業時期については2027年だったものが、2027年以降に変更されたが、仮に静岡県が新知事のもとでリニア



## New product

### AOKI HD デボー社のプリント使用ブラウスセットアップを展開



AOKIホールディングス(8214)傘下のAOKIは、フランスの老舗テキスタイルメーカー「DEVEAUX(デボー)社」のプリントを使用したブラウスセットアップ(ブラウス・ロングフレ

アスカート)を新たに展開する。上品さと華やかさを兼ね備えた繊細な線画調の花柄と、黒地にプリントで花を模した小紋柄の2種類を用意。ブラウスとロングフレアスカートを展開しており、一緒に着用することでワンピース風になる。ジャケットを羽織るとビジネスシーンでも着用可能な「きちんと感」を演出できる。AOKI限定店舗と公式オンラインショップで販売している。

## ダイワサイクル芦屋店開店

### DAIWA CYCLE

### 電動アシストやスポーツに力点

ダイワサイクル芦屋店



DAIWA CYCLE(5888)は4月5日に「ダイワサイクル芦屋店」(兵庫県芦屋市)をグランドオープンした。

ダイワサイクルはロードサイクルやインドアサイクル、スポーツバイク専門店など多彩な商品展開。電動アシスト自転車から、休日のサイクリングにもおすすめのクロスバイクまで、豊富なラインナップを用意。タイヤの無料空気補充サービスや修理点検なども行っている。

店舗周辺は坂の多い地域のため、芦屋店では電動アシスト自転車、スポーツサイクルに特に力を入れており、買い物に最適なカゴの大きい電動アシスト自転車から、休日のサイクリングにもおすすめのクロスバイクまで、豊富なラインナップを用意。タイヤの無料空気補充サービスや修理点検なども行っている。

企業レター

を行っている自転車大型専門店。郊外型ロードサイドを中心に店舗し、修理スペースを入口横に設置することで急な困りごと・相談にも迅速に対応できる店舗設計となっている。

## 潮流

## 衝撃CPIで円安加速!

## 米利下げ予想修正の影響は?

marKet / bAnk

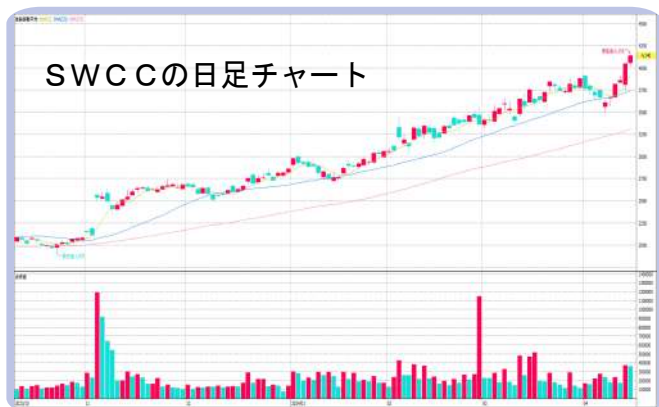
4月10日に発表された米国のCPI(消費者物価指数)ショックによる米

金利の上昇で円安が加速した。外国為替市場で円相場が大きく下落し、一時1ドル=153円20銭台と34年ぶりの円安水準だ。

日本政府による円買い為替介入は今のところない。介入を所管する財務省の鈴木財務相や神田財務官の決断は近づいている。介入を巡る神経戦は新たな段階に入った。2022年の円買い介入以降、財務省は3カ月前対比で10%程度の円安・ドル高を介入レベルとしている。

22年9月22日および同年10月21、24日の介入時はいずれも3カ月前の月初比で10%程度、ドルは対円で上昇していた。この「ルール」を今回、当てはめると154円台が目安となる。ただ、日本単独の介入となり、一時的に「円高・ドル安」になるが長続きはしないだろう。米国はインフレに神経質となっており、ドル安は物価上昇につながるため、米国はドルを売らない。

また、米国株式市場ではインフレ圧力の根強さを背景に米連邦準備理事会(FRB)の利下げ開始が遅れるとの見方が一段と強まり、大幅安となった。金利感応度が高いはずのテック株は銘柄によって明暗が分かれた。アップルやマ



イクロソフトが下落する一方、逆行高となったのはAI半導体のエヌビディアだ。今後の米株を象徴するような動きだ。

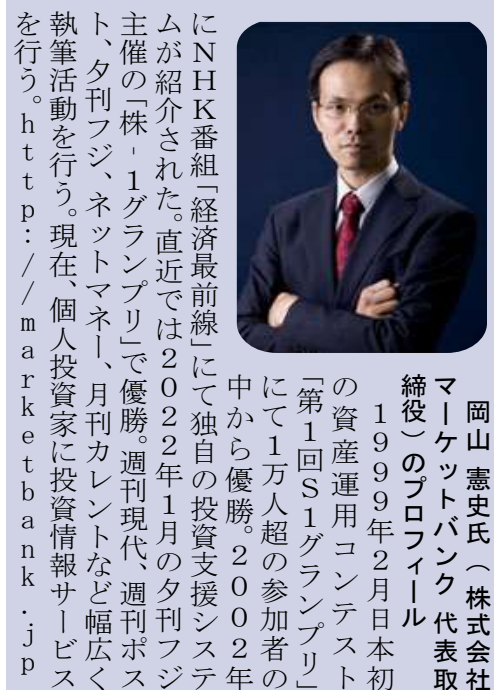
米金利先物の値動きから市場が織り込む米政策金利予想を推計する「フェドウォッチ」

をみると、6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で利下げを織り込む確率は前日の56%から20%程度まで一気に切り下がった。7月も政策金利が据え置かれるとの予想が過半を占め、今は最短でも9月の利下げ開始が市場のメインシナリオとなりつつある。

利下げ開始が遅れることで、年内の利下げ回数も減っている。「フェドウォッチ」では24年12月のFOMC後の政策金利予想は、前日までは0.25%分の利下げを「今年2~3回」で織り込んでいたが、足元では「今年1~2回」だ。年内利下げなしの確率も12.4%(前日は2.1%)へと一気に跳ね上がっており、インパクトは大きい。

市場は3月のFOMC後の政策金利見通しで示されていた年3回の利下げ予想をFRBが修正すると読んでいる。

潮流銘柄はSWCC(5805)、あいホールディングス(3076)、JFEホールディングス(5411)。



岡山 憲史氏(株式会社マリーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

テック株は銘柄で明暗分る



敏腕先物ディーラー

# ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

約531円高と3週ぶりに上昇、週足陽線となった。先週の日経平均は前週末比

週初は米雇用統計の発表を受け米国経済の底堅さを好感し株価は上昇した。しかし、週中に発表された米消費者物価指数

が市場の予想よりも強く利下げの時期が遅れると思われる長期金利が上昇、株価が下落した。

# 幻のSQで先安感強い

# 当面はボラの高い展開続く



イランのイスラエル報復への懸念も高まる

地政学リスクで原油価格も上昇、インフレ再燃を懸念するFRBの利下げは当面なさそうである。この間、為替も153円台まで円安が進行、

今週は中東リスクや為替介入の警戒などで上値は重そうである。チャートでは下降する25日移動平均線(3万9533円処)に上値を抑えられて



抜けても3月22日の高値を起点とする上値抵抗ライン(3万9800円処)を抜けて

4月限SQ値は3万9820円59銭となったが、金曜日の高値は3万9774円82銭でありSQ値を抜いておらず「幻のSQ値」となっている。SQ値を

当日に抜いていないという事は新たな買い需要が少ないということでもあり、先安感が強いともいえよう。

為替介入を警戒し積極的な買いは入れづらいようである。SQ値を

日経225先物日足チャート



こないと戻り売りのパターンになりそうである。一目均衡表の雲の上限が38881円処に位置するので、この雲の上限を割ってくると調整は更に長引きそうである。下値メドとしては一目均衡表の雲の上限(3万8881円処)、5日の安値(3万8774円)、ボリンジャーバンド▼2σ(3万8400円処)となる。10月の安値より日経平均は約35%上昇してきたので調整は当然ともいえる。利食い売りや新規買いが入り混じってボラティリティの高い展開がしばらく続きそうである。今週のレンジは3万8400円〜3万9700円を想定する。(ハチロク)

# 記者の視点 相場見通し

## 週明けも慎重な動き?

### 半導体はASML決算待ち

4月第2週の東京市場は一時、日経平均で1000円に迫る下げ幅となった第1週の5日から落ち着きを取り戻して3万9000円台に戻したが、3万9500円を超える戻り売りに押される展開で、膠着感の強い動きになった。

注目されていた3月の米消費者物価指数(CPI)が市場予想を上回る伸びとなり、年内の利下げ観測が後退したことが重石になったが、その翌日に発表された3月の卸売物価指数(PPI)は前月比で0.2%上昇となり、伸びは2月の0.6%上昇から鈍化したことで、インフレ再加速への懸念が後退し、週末にはナスダック最高値とも相まち買戻しを誘った。3月12日はS&P 500が1.2%上昇し、日経平均は1.1%上昇した。

5月9日、米連邦準備制度理事会(FOMC)の議事録が公表され、5月の利下げの確信が示された。米国の年内利下げ回数についてはFRB高官からは慎重な意見が増えており、それに絡む為替動向からも方向感が読みにくい。主要企業の決算発表が控えていることから、週明けも慎重な動きが想定されよう。

日経平均は5月9日、米連邦準備制度理事会(FOMC)の議事録が公表されたことを受け、5月の利下げの確信が示されたことを受けて、米国の年内利下げ回数についてはFRB高官からは慎重な意見が増えており、それに絡む為替動向からも方向感が読みにくい。主要企業の決算発表が控えていることから、週明けも慎重な動きが想定されよう。

日にアルファベット、マイクロソフトと半導体やAI絡みで有力企業の発表が相次ぐ。これら企業の決算内容次第ではレーザーテック(6920)、や東京エレクトロン(8035)、ディスコ(6146)など日本の半導体関連の株価も影響を受けることになる。

都内の外貨両替所店頭に通絶えることなく列が続いているという。1ドル153円台へ実に3年ぶりの歴史的円安が進んでいるからで、政府・日銀が為替介入を示唆するなか、今がチャンスとみて手持ちのドルを値下がりした円に換える人が急増しているらしい。単独による介入の効果には疑問が持たれているが、投資としてみればこのタイミングで利益を確定するのは賢明だろう。



レーザーテックの日足チャート

### 当面のスケジュール

- ・15日 2月機械受注  
米3月小売売上高
- ・16日 中国3月小売売上高、中国3月都市部固定資産投資、中国3月工業生産、中国1-3月期GDP  
米3月鉱工業生産・設備稼働率  
IMF世界経済見通し
- ・17日 3月貿易収支  
3月訪日外客数
- ・18日 2月第三次産業活動指数  
3月首都圏新規マンション発売  
米4月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数  
米3月中古住宅販売件数
- ・19日 3月消費者物価
- ・23日 4月auじぶん銀行製造業PMI  
米3月新築住宅販売件数
- ・24日 3月企業向けサービス価格指数  
独4月Ifo景況感指数
- ・25日 日銀金融政策決定会合(~26日)  
3月全国百貨店売上高  
米1-3月期GDP
- ・26日 植田日銀総裁会見/日銀「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)  
4月東京都区部消費者物価  
米3月個人所得・個人支出・デフレター

### 編集後記

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。